

令和4年度 名古屋ユマニテク調理製菓専門学校

学校関係者評価報告書

学校法人大橋学園 名古屋ユマニテク調理製菓専門学校 学校関係者評価委員会は、令和5年3月16日に「令和3年度 学校自己評価表」に基づいて学校関係者評価を実施しましたので、以下のとおり報告いたします。

令和5年5月22日作成

学校法人 大橋学園

名古屋ユマニテク調理製菓専門学校

学校関係者評価委員会

1. 学校関係者評価委員

1. 今井 昌人（有限会社 O'S フード所属）
2. 社本 太郎（株式会社 モンシエル代表取締役）
3. 田中 健太（名古屋ユマニテク調理製菓専門学校 製菓製パン本科 卒業生）
4. 星野 正純（名古屋ユマニテク調理製菓専門学校 学校長）
5. 木下 光（名古屋ユマニテク調理製菓専門学校 副校長）
6. 後藤 一宏（名古屋ユマニテク調理製菓専門学校 製菓製パン本科 学科長）
7. 鈴木 博明（名古屋ユマニテク調理製菓専門学校 調理師専科 学科長）
8. 岩田 壮介（名古屋ユマニテク調理製菓専門学校 事務長）
（オブザーバー） 三宅 孝（名古屋ユマニテク調理製菓専門学校 事務局）

以上9名

2. 令和4年度 自己評価（令和3年度の学校運営等についての評価）

項目	評価・課題
(1) 教育理念・目標	評価：ほぼ適切である。 課題：業界が求める人材像を教職員全員が理解しているか。業界の求める人物像に生徒・学生自身が理解しているか。 改善策：業界多方面からの意見をできるだけ聞き、生徒・学生に日々の授業を使い伝えていく。業界のニーズを捉えるための情報収集が上手くいかないこともあり、学校関係者評価委員会とともに教育課程編成委員会においても、業界から様々な意見を取り入れ改善につなげる。
(2) 学校運営	評価：ほぼ適切である。 課題：毎年職員の入替わりがある中で、経験とノウハウの定着を考えると、やはり人材の確保、定着、そしてスキルアップを図っていくことが課題である。 改善策：技術、経験のある人材確保と定着を押し進めるため、ハローワークや民間人材紹介サイト等を駆使し幅広く多方面からの情報収集に努める。

<p>(3) 教育活動</p>	<p>評価：適切である。 課題：教員の資質向上からの教育能力のレベルアップ並びに環境整備。 改善策：学園独自の教員のレベルアップ研修を行うが、指導力や技術力を磨くための外部研修も取り入れていく。そのためには、計画性に加え職員相互間での理解、協力が必要である。</p>
<p>(4) 学修成果</p>	<p>評価：ほぼ適切である。 課題：卒業生の追跡、活躍の把握ができていない。 改善策：校外実習の依頼やパンフレット掲載用写真撮影等を利用して卒業生の就職先を訪問するとともに、現在コロナ禍で活動が止まっている「同窓会」組織を活用して情報収集していくことで改善につなげる。</p>
<p>(5) 学生支援</p>	<p>評価：ほぼ適切である。 課題：生徒・学生がいつでも気軽に相談できる体制作り。生徒・学生の自習室や休憩場所等環境の整備。 改善策：生徒・学生増に伴い施設設備が少し手狭になっているため、生徒・学生がしっかりと心を落ち着かせられるような場所の確保に努める。加えて、3 学科ある中で学生指導についても、学校としての指導面をある程度統一した形とする。</p>
<p>(6) 教育環境</p>	<p>評価：ほぼ適切である。 課題：「防災マニュアル」が完成したが、防災についての構成員への危機意識をどのような活動を通じて把握、周知させるかが課題である。 改善策：災害時の防災用品としては備蓄水等整備をしているがまだまだ不十分な面があるため、機能的に使用できる物をそろえていく。今後想定される災害に備え、避難訓練や緊急連絡方法の訓練(安否確認等)、或いは災害講話等をこまめに実施することで日頃から災害対応意識を高める。</p>
<p>(7) 学生の受け入れ 募集</p>	<p>評価：適切である。 課題：オープンキャンパスの内容の向上、外部への発信。 改善策：SNS 等を活用した宣伝募集活動を増やしていくとともに、オープンキャンパスの参加者ニーズに応えられるような内容の見直しを毎年図っていく必要がある。</p>
<p>(8) 財務</p>	<p>評価：ほぼ適切である。 課題：消耗品を始め光熱費等においても無駄遣いと思われるものがある。特に電気代の高騰への対処は不可欠である。 改善策：節電の強化に努める。節電の有無は最終的にはコスト面で生徒・学生の納付金にも影響しかねないが、学費の値上げには高いハードルがあり(選ばれる学校でなければならないので学校の内容と合わせて検討)、コスト面も含めて今後見直しが必要と考えている。</p>
<p>(9) 法令等の遵守</p>	<p>評価：適切である。 課題：法令は、全ての教職員は基本的には遵守しなければならない。併せて、個人情報についても机上の書類等にもっと気を付ける。 改善策：個人情報については、生徒・学生の書類など裏向けて置く等取り扱いには慎重を期す。</p>
<p>(10) 社会貢献・ 地域貢献</p>	<p>評価：ほぼ適切である。 課題：社会貢献や地域貢献等がコロナ禍により十分に活動ができていない。 改善策：令和 3 年度もコロナ禍にあって中々外に向けて動けない状態があった。地域貢献</p>

	など社会に還元していく役目も本校は担っているため、身近な取組から徐々に活動を開始する。
--	---

3. 令和4年度 学校関係者評価（令和3年度の自己評価についての評価）

項目	評価
(1) 教育理念・目標 「理念・目的・育成人材像は定められているか」	ほぼ適切である。
(2) 学校運営 「目的等に沿った運営方針が策定されているか」	ほぼ適切である。
(3) 教育活動 「教育理念等に沿った教育課程の編成・実施方針等が策定されているか」	適切である。
(4) 学修成果 「卒業生・在校生の社会的な活躍及び評価を把握しているか」	ほぼ適切である。
(5) 学生支援 「生徒・学生相談に関する支援体制は整備されているか」	ほぼ適切である。
(6) 教育環境 「施設・設備は、教育上の必要性に十分対応できるよう整備されているか」	ほぼ適切である。
(7) 学生の受け入れ募集 「生徒・学生募集活動は適正に行われているか」	適切である。
(8) 財務 「財務について会計監査が適正に行われているか」	ほぼ適切である。
(9) 法令等の遵守 「法令、専修学校設置基準等の遵守と適正な運営がなされているか」	適切である。
(10) 社会貢献・地域貢献 「学校の教育資源や施設を活用した社会貢献・地域貢献を行っているか」	ほぼ適切である。

4. 学校関係者評価 総括と課題について

項目	評価・意見
自己評価結果についての全体的な評価・意見等	生徒・学生増に伴い施設設備が少し手狭になってきている状態があり、建物スペースを上手く使用するなど工夫し、生徒・学生がしっかりと心を落ち着かせられるよう場所の確保に努める。毎年職員の入れ替わりがある中で、やはり人材の確保と定着、そしてスキルアップを図っていくことが教育活動の根幹となる。コロナ禍にあつて卒業生の状況把握ができていない課題があり、同窓会や SNS 等を活用し情報収集に努める。